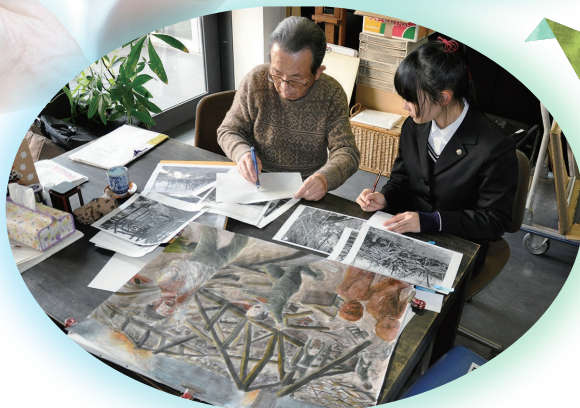


令和7年度



平和を語る市民のつどい

継承とは何か。継承は可能か。何をもって継承なのか。



—原爆体験の継承の現場から考える—

広島美術部員は原爆の夢を見るか？



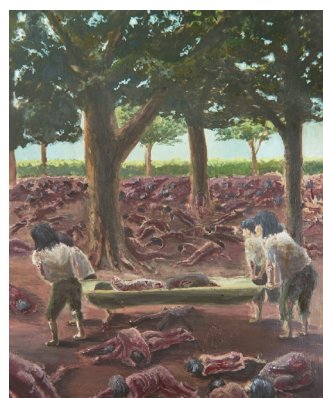
「後に生きる人たちへ」
作/証言者:長尾ナツミ 制作者:一ノ間照美



「人間檻裡(らんる)の群れの中に」
作/証言者:児玉光雄 制作者:津村果奈



「忘れられない〜あの眼」
作/証言者:児玉光雄 制作者:富田葵天



「大芝公園へ負傷した友人を運ぶ」
作/証言者:梶本淑子 制作者:出上達也

広島市立基町高校の生徒と被爆体験証言者との共同制作による「原爆の絵」
所蔵/広島平和記念資料館

日時 令和8(2026)年

1月11日(日) 午後1時～午後4時

会場 川崎市平和館 屋内広場 (川崎市中原区木月住吉町33-1)

観覧 無料・定員150人

12月16日9時から市ホームページの申込フォーム、または電話により申込 [申込フォーム](#)
事前申込・先着順 子どもの預かり(2歳～就学前)あり、手話通訳・要約筆記あり(12月25日までに要予約)



令和7年度 平和を語る市民のつどい

川崎市では、「核兵器廃絶平和都市宣言」の理念に基づき、戦争体験を風化させず、次世代に継承するとともに、平和な地域社会の実現に向けた意識の高揚を図ることを目的に「平和を語る市民のつどい」を毎年開催しています。

戦後80年が経過し、「戦争」を体験した世代がいなくなりつつあります。
近い将来やってくる、体験者のいない世界で、
記憶の「継承」はどのようにして可能なのか。
そもそも私たちは、なぜそれを「継承」しなければならないのか。

イベントの内容

1 ワークショップ① 中学・高校生による現状イメージの共有

まず「原爆体験の継承」と聞いて思い浮かぶ正直なイメージを共有してみよう

2 講演会 小倉 康嗣さんの講演(60分)

(慶應義塾大学文学部教授/社会学者)

高校生が被爆証言を絵に描く取り組み — 高校生たちはそこで何を経験しているのか —

3 ワークショップ② 中学・高校生による議論・発表

原爆体験の継承とは何か、継承は可能か、何をもって継承したことになるのか、いっしょに考えよう

※今回のワークショップは、参加者が「原爆の絵」を描くものではありません。



講師・ファシリテーター

慶應義塾大学文学部教授/社会学者 **小倉 康嗣さん**

専門はライフストーリー研究、生の社会学、原爆体験の継承。

ライフストーリー研究を軸に「生(life)の社会学」を基本的なテーマとして調査研究。原爆体験に非体験者がいかに「自分ごと」として関わっていけるのか・継承していけるのかをめぐる実践等を追いかけながら、そこに生成する出会いと対話、生きられる継承と社会的つながりの可能性について考えている。

著書:『高齢化社会と日本人の生き方—岐路に立つ現代中年のライフストーリー—』『なぜ戦争体験を継承するのか—ポスト体験時代の歴史実践—』(共編著)、『原爆をまなざす人びと—広島平和記念公園八月六日のビジュアル・エスノグラフィ—』(共編著)など。

広島では、高校生が被爆者と対話を重ね、その原爆体験を絵に描いていく取組が行われています。原爆を体験したことも見たこともない高校生が、なぜ、どのようにして、被爆者がリアルに感じられる「原爆の絵」を描けるのか。そこでは何が起こっているのか。そこで高校生たちはどんな「経験」をしているのか。

講演とワークショップを通じて、「体験や記憶の継承」について、単なる伝達ではない、主体性を持った営みとしていくためのプロセスについて学びます。



交通

東急東横線「武蔵小杉駅」

または「元住吉駅」から徒歩約10分

JR南武線、横須賀線「武蔵小杉駅」から徒歩約10分

※駐車場が狭いため公共交通機関を御利用ください。

主催:川崎市

共催:川崎人権啓発活動地域ネットワーク協議会
(横浜地方法務局川崎支局・
川崎人権擁護委員協議会・川崎市)

問合せ先:

川崎市市民文化局人権・男女共同参画室

電話 044-200-2316

FAX 044-200-3914